T.D.P

トップデイブロップメント、プログラム

CLUB Yuji

2012年3月号

2、部下

トップには部下が必要不可欠である。
優秀な部下はトップを支え、経営を成功に導く。
部下は最低でも2人は必要である。
一人は計画に加わり運営を助ける参謀と、
一人は現場を指揮統率する指揮官である。
トップは一人ではやれない。

3、部下との信頼関係

トップと部下とは強い信頼で結ばれていなければだめだ。
その信頼関係を作るのはトップがやるのだ。
自分はどんな考え方、理念を持って経営するのか、情熱を持って部下に伝え、そして賛同を得ることだ。ここといいかげんにやると、信頼できる部下はできない。
部下は人生を賭けた同志であり、人生の友だ。

追伸。

2月3日で70才になりました。

感謝

南三陸から
2011.3.11～2011.9.11
PHOTO LETTER FROM MINAMI SANRIKU BY SHINICHI SATO

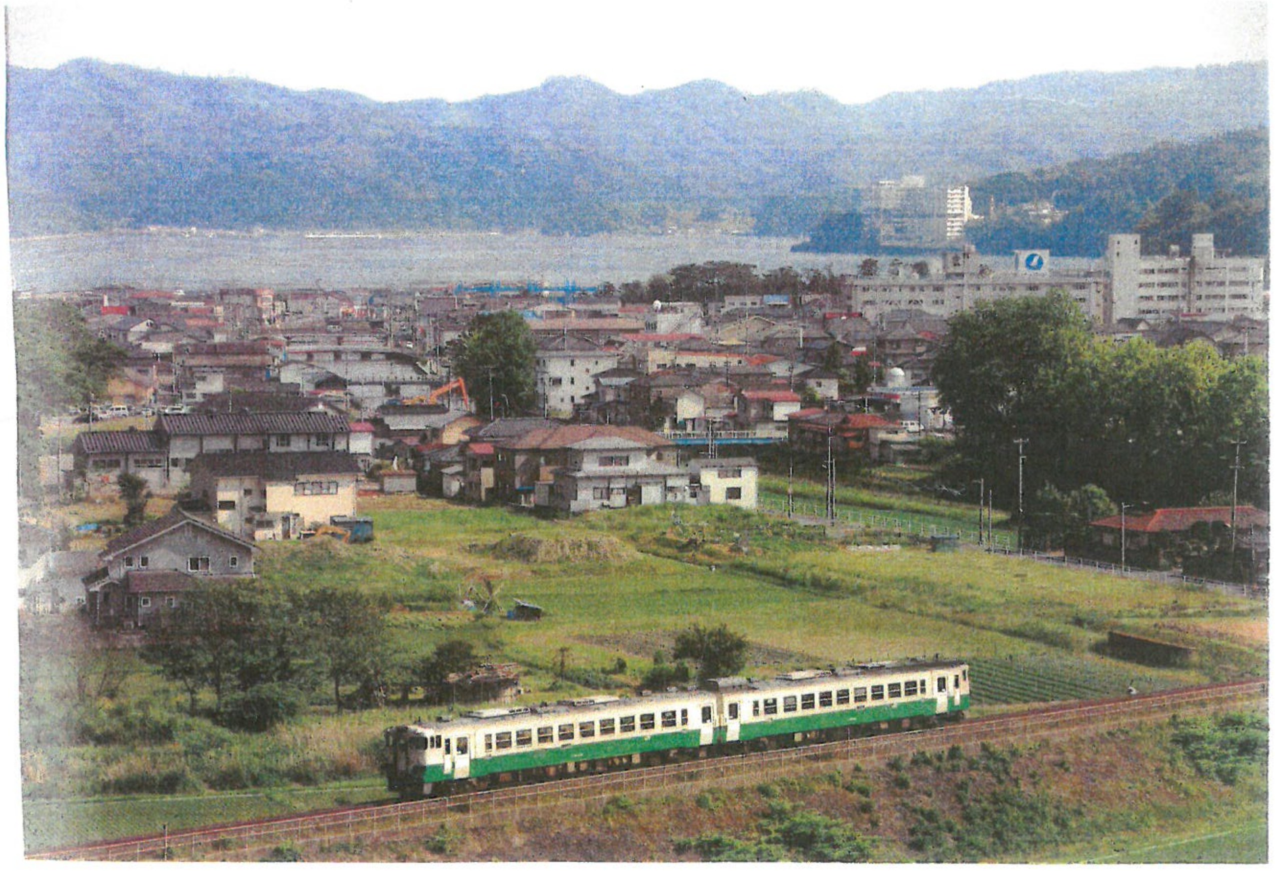
写真
佐藤信一

PHOTO LETTER FROM MINAMI SANRIKU BY SHINICHI SATO
南三陸
2011.3.11～2011.9.11
写真 佐藤信一

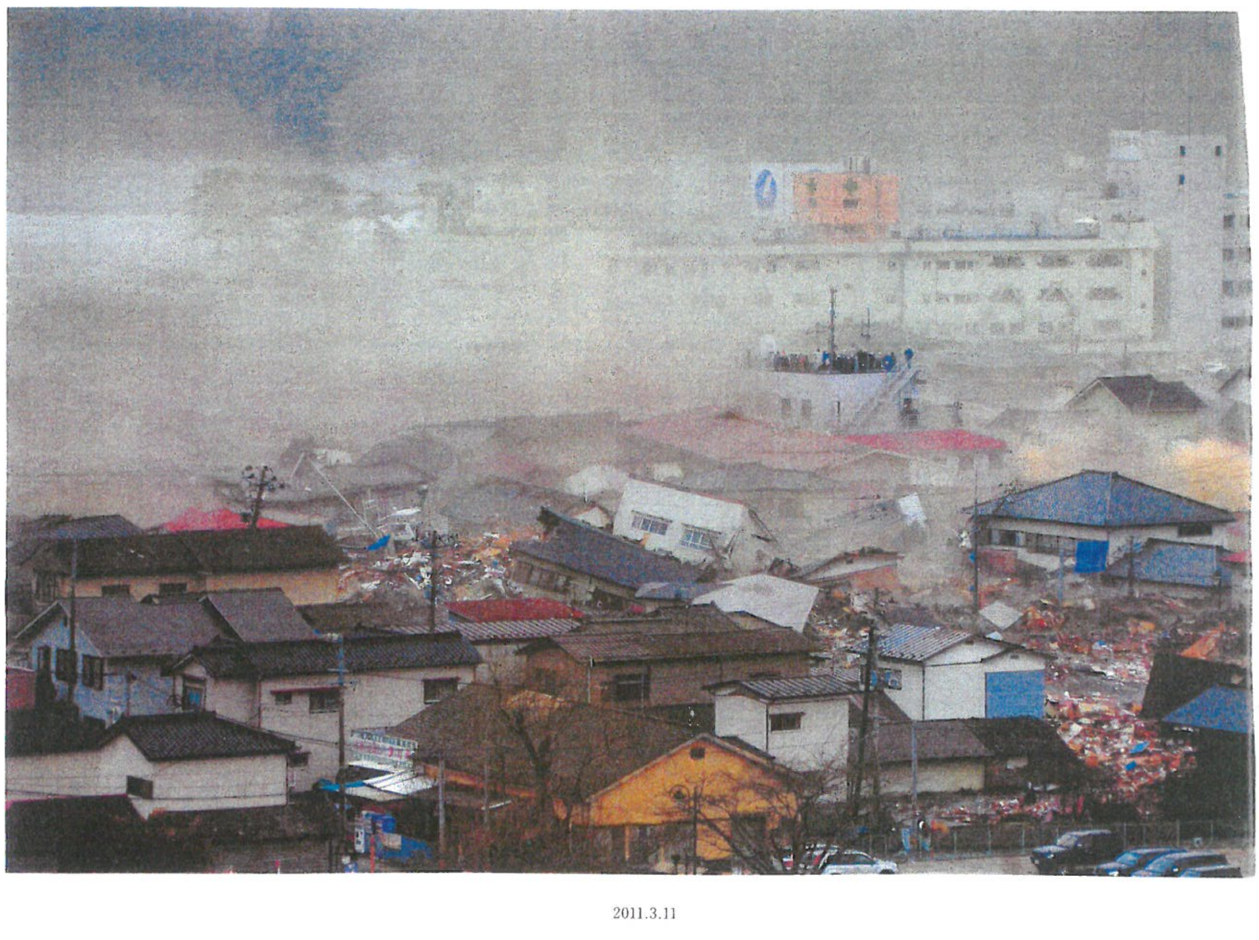
あの日以来、多くの人たちが南三陸を訪れて、心を繋いでくれています。本当に心から感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。
私は町の小さな写真屋の二代目。皆さんに支えられて今日まで頑張ってこれました。先日、私の撮影した昔の町並の写真を見てた方が泣いていた。
ガレキの中から探し出した一枚の写真を私に見せ「これでまた生きて行けるよ」と大切に胸にしまった人もいた。ホント写真の力ってすごいなと感じた。
私の店も家もすべて流されたけど、この町に生かされた写真屋ができる事。それはやはり写真で恩返しする事、そう強く感じています。
写真はありのままを写す。時に辛い場面も写し出す。だから喜びも悲しみも心を込めてシャッターを切ろう。そう心に決めました。
かけがえのないふるさとと人々の心の強さ、あたたかさを伝える為に。今を写せば未来へ繋がる。写真の力を信じて…

頑張ろう 南三陸 佐藤信一

この写真集の売り上げ1冊につき、300円が宮城県南三陸町へ義援金として寄付されます。



2007.6.12 JR気仙沼線と町並み



2011.3.11

衝撃的
でした。
Ito

佐藤信一

1966年 宮城県
本吉郡南三陸町
生れ、親子二代
南三陸町で
写真館「佐良
スタジオ」を営
んでいたが、
2011年3月11日、
東日本大震災の
津波により自宅及び
写真館を失う。
「一番苦しいときの
写真を残す」この先
何が起きても、
みんなが越えられる
乗り
よう」と、唯一
持って逃げたカメラ
で地震直後から
失われた街が元
通りになるまでの
道のりを今も撮り
つづけている。

〒104-8172
ADK南三陸町
復興支援
プロジェクト
東京都中央区
築地1-13-1
03-3547-2111